第十回ハイクアート賞発表！

俳句美術館・第十回「ハイクアート賞」に多数のご応募をいただき有難うございました。『俳句部門』では、八木健の制作したアート九点に俳句をつけていただきました。『ハイクアート部門』では、アートと俳句の両方をご自身で作っていただいてご応募いただきました。応募総数は、俳句部門が一三四点、ハイクアート部門が一五四点で、五歳から九十一歳の方がご応募くださいました。

審査の結果、以下の通り、大賞、選者特選、秀逸、入選の各賞を決定致しました。

俳句部門

大賞

さくらさくら空への扉開け放つ

茨城県　舘健一郎

【講評】「空への扉」という虚構に存在感がありました。素晴らしい開放感。（松本）。青空に映える花の山。何とも解放感あふれる気持ちの良い句である（山田）。

特選

どの音も弥してゐる夏の山

埼玉県　稲葉純子

【講評】夏の山に入ったことを「どの音も弥してゐる」ととらえた感覚が冴えている。この誇張ともいえる表現が夏の山の生命力を見事に伝えてくれる。

長生きは幸福な罰蝶泳ぐ

京都府　初霜若葉

【講評】長生きしますと、うっとりするような倖せな時間もあり、また、どうしてこんな痛い目に合うのというような苦痛もあります。

松本勇二賞

人は肩きのこは傘を寄せて生き

愛媛県　日根野聖子

【講評】きのこから人への発想の展開に冴えがありました。生きているということの大切さを思います。

山田貴世賞

茸や茸宇宙人の置き土産

埼玉県　稲葉純子

【講評】茸が宇宙人の置き土産とはおもしろい。形からの発想だろうか。破調のリズムが妙に合っていて楽しい。

八木健賞

ぶらぶらと生きて束子（たわし）となる糸瓜

大阪府　久松久子

【講評】糸瓜を擬人化して楽しい句。「ぶらぶらと生きて」まで読んで、その後「束子になる」とは予想もつかない展開です。読者を驚かせる滑稽俳句。

秀逸

山笑ふ小さき町に着任す

広島県　帆足あさ

【講評】桜咲く季節は山笑う季節。新年度が始まる季節でもある。辞令は山に囲まれた小さな町への赴任だが、無事に着任した。山は笑って新任者を歓迎してくれたのだ（小西）。

人生の節目を淡々と書いて巧みです。赴任先での明るい未来が予見されます（松本）。

新蕎麦を練るもさらすも富士の水

茨城県　舘健一郎

【講評】これは私にぴったりすぎる句。打つも練るもさらすも、富士の水です。いま思えば、お風呂の水まで全部、井戸水でした。富士の水という贅沢でした（富士）。

村一つ搦め捕つたる花万朶（ばんだ）

大阪府　久松久子

【講評】満開の桜越しに村をながめている景だろうか。万朶の桜越しなので、まるで村がまるまる桜に搦めとられたように見えるのだ。桜の魔性（小西）。花万朶は満開の桜のこと。

「村一つ絡めとった」という表現は桜の圧倒的パワーを表現して巧い。桜には敵いませんと絶賛しているのがいい（八木）。

見せ場とは春の女神の裾さばき

岡山県　工藤泰子

【講評】春の女神とは佐保姫のこと。「裾さばき」が気になる俳人がいるから、佐保姫は注意深くやって来る。春の訪れが遅い年は、裾直しにいつもより手間取っているから（八木）。

恋もあるダンス教室夏旺（さか）ん

山口県　三野公子

【講評】ジルバにタンゴにワルツなどなど。恋の生まれることもあるのだろう。季語も効いている（山田）。

入選

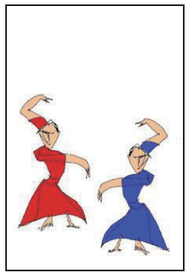
アート① 春

啓蟄や地球の廻る音聞こゆ　祐宇

アート② ちょう

野に山にひかり降るごと蝶生まる　三野公子
アサギマダラロマンを乗せて旅の空　稲葉純子
初蝶や光に押され風を生む　舘健一郎
黒揚羽トトロの森を変幻す　赤瀬川至安

アート③ ダンス



夏惜しむシックスビートジルバの夜　佐藤茂之
ダンサーは仲違ひ中夏の宴　月城花風
初恋のフォークダンスや秋暑し　井野ひろみ

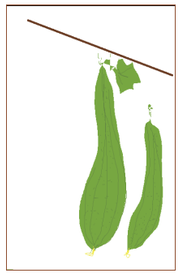
アート④ リズム

曲目はパッション夏のパーカッション　日根野聖子

アート⑤ ワイン

夏の夜半コロナ診察後のワイン　佐藤茂之
赤ワイン酔ひを味はう白夜かな　金山　陽
秋澄めり「風」という名のワインバー　舘健一郎
ワイン片手に早乙女のルームノック　沖枇杷夫
春雨やワイングラスの細き脚　久松久子

アート⑥ 糸瓜



駅舎なき短かきホームに長糸瓜　舘健一郎
吊るされて真つ青になる糸瓜かな　稲葉純子

アート⑦ 山

山笑ふ五キロ歩きて膝笑ふ　佐藤茂之

アート⑧ きのこ

出揃つて愛想振りまく毒きのこ　田村米生

アート⑨ 夜空

時雨忌や夜空に光る七つ星　沖枇杷夫
星の光ひしゃくで拾い花かんざし　西垣順子
流れ星見たと夜空の彼方指す　伊藤京子
夫逝きて幾年月や天の川　久松久子
願っても叶わぬ恋よ星月夜　帆足あさ
冬の星つまさき立ちして並べけり　千葉信子

ハイクアート部門

大賞

儂を見よまだ分からぬか原爆忌

岡山県　貞住昌彦（写真）

【講評】
原爆に焼かれた人間が、炭化しながらも叫んでいるようです。地球上にある核爆弾は一万三千。画像とともに強いメッセージが伝わってきます（八木）。背景に使われた写真は焼け残って炭化した板だろうか。それが焼け焦げた人間の顔に見える。それは写真に添えられた俳句の影響も大きい。原爆忌の言葉が重くのしかかってくる。俳句と写真の見事なコラボである（小西）。核をちらつかせてウクライナへ侵攻しているロシア。プーチンに贈呈したい写真と一句である（山田）。

特選

ふたつもぎひとつふふむやさくらんぼ

小西昭夫賞

愛媛県　荒川　月（写真）

【講評】
熟したさくらんぼの一枝の写真と俳句のバランスがいい。他の作品に比べて俳句の文字が大きいのだが、すべて平仮名書きされて、緑地に白字の俳句がしっかりと主張している。背景のさくらんぼもいい。

この先の入道雲はばあちゃん家

冨士眞奈美賞

兵庫県　藤濤拓郎（写真）

【講評】
如何にも俳句的。情景、状況が整っていて、童謡のメロディーが聞こえてきそうです。

松本勇二賞

あの月を食べたら空に逢えるかな

神奈川県　卯月トト（クーピー）

【講評】
月をディナーに見立てたアートは、少し食べられた月とその横に置かれたナイフ・フォークがポイントで、夢の世界に誘います。感覚優先で書かれた俳句は、つぶやきをそのまま定型にのせたもので新鮮です。従来の俳句にない疑問形の終わり方もインパクトがありました。齧られた月もかなりあせっていることでしょう。

山田貴世賞

来世は海も良いかと芋が夢

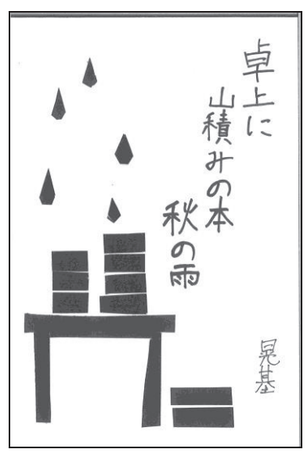
岡山県　貞住みえこ（写真）

【講評】
お芋も夢をみるのだ。じっと見ていると、このお芋、烏賊に見えてきた。写真と句の一体化が見事。

八木健賞

卓上に山積みの本秋の雨

愛媛県　高田晃基（切り絵）



【講評】
シンプルな画面構成がいいですね。モノクロでの表現もいい。アートは単純化された時に伝達力が増すことを教えてくれる作品です。句の構成は、季語「秋の雨」と取り合わせであるが、「山積みの本」という静に「秋の雨」の動が、音もなく組み合わされているところに時間の経過も感じられて、句に奥ゆきが生まれている。

秀逸

妖怪は今コロナなり退治せむ

奈良県　堀ノ内和夫（写真）

寝とんのに露さん悪させんといて

岡山県　難波美枝子（写真）

初雪が花咲か爺と知った朝

神奈川県　八十日目（写真）

明日は発つ古巣の温み記憶せむ

岡山県　貞住昌彦（写真）

にじでたよフルーツのったアイスクリーム

長野県　飯岡実久（貼り絵）

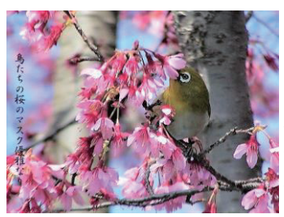
入選

夏祭り一夜の夢もうろ覚え

大阪府　毛利実蘭（鉛筆）

鳥たちの桜のマスク優雅なり

神奈川県　八十日目（写真）

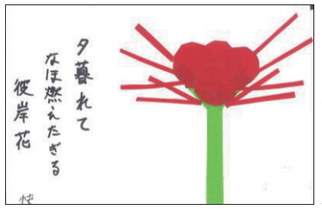


仲良しが敵と味方に運動会

愛媛県　青木心優（切り絵）

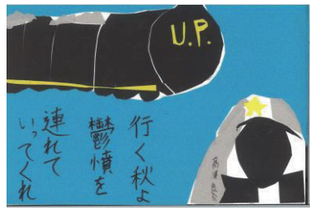
屋根の猫月光浴をしておりぬ
愛媛県　青野　正（切り絵）

夕暮れてなほ燃えたぎる彼岸花
愛媛県　二神　快（切り絵）



原付で夜学を帰るもちの月
愛媛県　堀内祐希（切り絵）

行く秋よ憂鬱を連れて行ってくれ
愛媛県　髙津良介（切り絵）



ここにある私の夏は青と白
三重県　郡　悠月（写真）

雲のように自由になりたい十五の夏
三重県　大川理斗（写真）

目ん玉を幾つ増やすや蛇の目蝶
神奈川県　八十日目（写真）

あどけないコスモスとてもちっさくて
愛媛県　大西里咲（切り絵）

まんまるな満月その下に進之助
愛媛県　平間進之助（切り紙）

秋の夜私の前に桃一つ
愛媛県　脇瑚叶香（切り絵）

脱皮失敗まだら日焼けの孫の鼻
東京都　兎威（水彩）

七つ目の春和やかに祝いけり
東京都　林真悠子（布絵手紙）

おしまいの一個の桃の父にかな
愛媛県　西田遼介（切り絵）

拗ねてみせ夏の夕餉の名子役
岡山県　難波美枝子（写真）

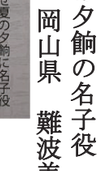
審査員紹介

小西昭夫

子規新報編集長、愛媛新聞俳壇選者。句集『花綵列島』『ペリカンと駱駝』『小西昭夫句集』『チンピラ』、著書『金曜日の朝』『虚子百句』他。

冨士眞奈美

俳人。女優。句集『瀧の裏』、エッセイ『東京俳句散歩』『身ひとつの今が倖せ』『てのひらに落花』他。



松本勇二

愛媛県俳句協会会長、「虎杖」代表。

山田貴世

「波」主宰。句集『わだつみ』、『湘南』他。

八木　健

俳句美術館館長、滑稽俳句協会会長、「八木健の俳句遊遊」番組主宰。句集『ゆず』『逃水』『滑稽俳句集』『平成の滑稽俳句』、著書『俳句・人生でいちばんいい句が詠める本』他。

第11回ハイクアート賞募集要項

1. 俳句部門…八木健のアートに俳句をつけてください。
2. ハイクアート部門…ご自身のアートに俳句をつけてお送り下さい。

募集期間：令和５年４月１日～令和５年７月31日
審 査 員：小西昭夫　中山和子　冨士眞奈美
　　松本勇二　八木 健
結果発表：令和５年10月下旬予定。
主　　催：俳句美術館　（問合せ 090-8287-1390）

＊作品はオリジナルのもので未発表に限る。
＊募集内容の詳細は、俳句美術館ホームページに、令和５年３月頃掲載予定。「俳句美術館」で検索可。
　http://www.haikubijutsukan.com
＊応募作品の著作権は主催者に帰属。